

宮守町新町自治振興会



子どもたちの登校を見守る新町自治振興会の皆さん。左から二人目が八重樫正昇会長。右端は河野洋一部会長

ACT 1

地域全体で子どもたちの安全を守る

自分たちの地域は自分たちで守る

「おはようございます」
「おはよう。横断歩道は左右を確認して、手を上げて渡るんだぞ」
二学期が始まった八月二十一日の朝、子どもたちと大人が交わす元気な声が辺りに響きわ

たっていた。
子どもたちの登校を見守るのは、宮守町新町自治振興会(八重樫正昇会長)が組織する「子ども見まもり隊」だ。この日は、二十一人が同地区の通学路三方所に分かれて活動を行った。
全国で子どもをめぐる事件が相次いでいる。安全と思われている本市でも、登下校中の児童・

生徒に声を掛けているなどの不審者情報が年に数件寄せられている。
新町自治振興会はこれまで、文教部会を中心となり地域の子ども会活動を支援してきた。

起きてしまっ たからでは…

「事件が起きてしまっからでは遅い。子どもたちの安全を守るために何かできないか」と、同部会では五月から「子ども見まもり隊」の結成に向けた協議を重ねてきた。
七月二十四日、みやもりホールで「子どもの安全を語る会」を開き、その中で「子ども見まもり隊」の活動内容を説明。地域住民の賛同を得て、見まもり隊が発足した。子ども見守り活動を組織的に行うのは、宮守町では初めてのことだ。

「子ども見まもり隊」と書かれたタスキ四十本と、のぼり旗十本を用意。本年度は、二・三学



— 特集 — 住民力に迫る

地域のチカラ

「自分たちの地域は、自分たちの手で」—そんな活動が市内で広がっている。住民自らが考え、実践する「市民と行政の協働のまちづくり」につながる活動を紹介する。

焦らず、じっくり

河野洋一部会長は「見まもり

期の始業日を活動日として登校時の子どもたちを見守るほか、普段から地域の人たちが犬の散歩やウォーキングを行う際にタスキを掛け、子どもたちを見守る。
隊の活動では当番制で活動するようなことはしない。みんな自主的に参加している。長く続けることに意味があるので、活動を強制することなく、焦らずじっくりと取り組んでいきたい。そして、この活動がほかの団体や地区に広がっていくきっかけになればいい」と期待を込めて話す。



宮守小学校校長
菊池 定雄さん
きくち・さだお

子どもを狙った犯罪が全国的に発生しています。この地域ではまだそのような話は聞こえていませんが「子ども見まもり隊」の皆さんには、防犯の意味合いだけでなく、交通安全の観点からも見守っていただいています。子どもたちは一人や二人で下校することもありますので、見まもり隊の活動は学校としても心強いです。家庭でもきっと同じ思いでしょう。

ぜひ、この活動がほかの地区にも広がり、子どもたちが安心して生活できる町であってほしいと思います。